短大の明日の道探る

第3回 FDシンポ

短期大学部の今後に進むべき方向をテーマに第3回FDシンポジウムが2月12日、中宮キャンパス多目的ルームで開かれた。短大を取り巻く厳しい環境のもと、「質の高い大学推進プログラム（教育GP）」として国から選定された「ファーストステージで学びの進化をカタチに」のこれまでの3年間の取り組みを振り返りながら、新たな道を探った。

谷本理事長が基調提案行う

約100人が出席。はじめに谷本榮子理事長・短大部学長が基調提案に立った＝**写真左**。少子化、4年制大学志向、東京一極集中で全国の6割を超える短大が定員に達していない。本学で3年間行ってきた教育GPが今年度末で一応終わるが、これからは社会人の受け入れ拡大や多様な学習期間（3か月～2年）を想定した学位取得や卒業とは一線を画す学びも検討すべきだと述べた。

パネリスト6人報告と質疑応答

このあと、全員短大部のクラスアドバイザーでもある田村幸男事務局長（客員教授）、藤原定壽教授、染田靖准教授、阿部奈南准教授、加堂裕規教授、廣本和司教授の6人のパネリスト＝**写真下左から**＝が順に、それぞれのテーマで取り組みを報告した。

質疑応答では、大学として卒業までに得られる資格などの保証や「目指すべき学生像」を明確化すべきではないかという意見が出る一方で、逆にそれぞれの学生に応じた指導や多様性の確保こそ求めるべきとの意見の応酬もあった。

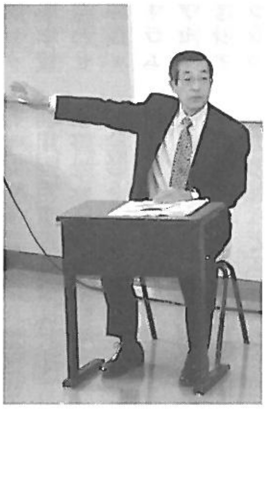
大学も「観客」を意識

最後に岡澤潤次・短大部、澤田治美・大学の両FD委員長が「充実した留学制度という強みを発揮しながら、大学も『観客』を意識した取り組みが必要になってきているのではないか」と総括した。

里山文化を再認識

浅野教授が力説

FD授業研究



国際言語学部・浅野浅春教授＝**写真**＝によるFD授業研究が1月25日、穂谷キャンパスで行われた。今年度2回目の同授業研究。テーマは「授業実践と穂谷里山について」。約40人が参加。詩人・金子みすゞの詩句「見えぬけれどもあるんだよ」を引用しながら、自然の営みと廃れゆく里山文化への再認識を授業へ結びつける方策を論議した。

浅野教授は穂谷の里山の豊かさを指摘。人々が地元の三之宮神社で行ってきた雨乞いの返礼行事の多彩さを例示。さらに、手延べそうめん作り、日本酒醸造、渋柿を編んだ縄でつるして干す「柿のれん」など人と自然の協同作業の意味合いを語りかけた。

一方で、竹の繁殖により日光がさえぎられて、生態系が脅かされている。NPOやゼミの学生らも加わって、余分な竹を伐採している。

こうした実践や授業の実態と、学部の目的に照らし、浅野教授は受講生との間に意識のずれもあると率直な反省を述べながら、大学としての社会貢献のために窓口や担当教員の配置の必要性を訴えた。

参加者からは「文科系と自然科学系を総合的に学べるように取り組み、科研費を得られるようにできたらいい」といった意見が出された。

THE GAIDAI
関西外大通信
Kansai Gaidai
KANSAI GAIDAI UNIVERSITY
KANSAI GAIDAI COLLEGE
October 23, 2008 特別号外

教育GPに本学から2件選定

「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想 大学

ファーストステージで学びの進化をカタチに 短大部

本学の二つの教育プロジェクトが、文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定された。大学の『ASEAN+3』大学コンソーシアム構想」と短期大学部の「ファーストステージで学びの進化をカタチに」で、補助金対象期間は平成20年度から3年間。本学のプロジェクトが文科省の大学教育改革の支援プロジェクトに選定されるのは、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に「学生人材バンクによる地域国際化の推進」が18年度に選ばれて以来だ。今回、2プロジェクトが選定されたのは、教育改革に積極的に取り組む本学の姿勢が高く評価された表れといえ、その成果は、わが国が進める国際交流の方向や、前期高等教育のあり方の指針となるものだ。

大学のプロジェクト「『ASEAN+3』大学コンソーシアム構想」は、文部科学省などが、平成32年を目途にめざしている「留学生受け入れ30万人計画」に対する本学の回答といってもよい。この計画の実現には、アジア諸国の学生に「日本への留学」を選択してもらわなければならないが、「日本語での授業」が大きな壁となっている。

そこで本学は、留学生別科で実績のある「英語での授業」を提案。世界標準の英語を採用することで、欧米から日本に目を向けさせることを狙っている。外国人教員に加え、海外の大学などで教育経験のある日本人教員も授業を担当するが、日本人教員については米国の大学で教授法を研修する予定だ。

ASEAN10か国と日、中、韓の3か国の大学でコンソーシアムを組み、「アジアを知りアジアを担う次世代国際人の養成」を目的に、「二重学位」の取得をめざす。本学では学部に本科生として受け入れ、学士号を授与することになる。外国語学部では初のケースとなり、学則変更など手続き上の措置が残っている。

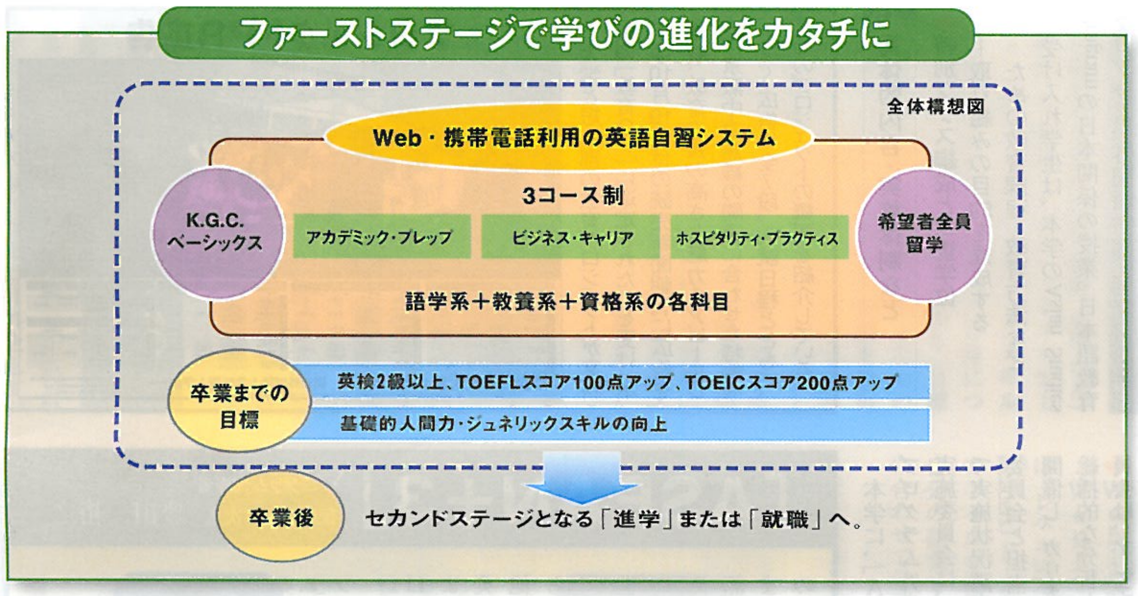
交換留学の形を取り、派遣・受け入れとも約20人を予定。本学では学部レベルの英語で授業するクラスを増やし、留学生と共に外大生も授業を受けられるようにする考えだ。開講する授業は社会科学で、ビジネス&ホスピタリティ、国際機関の職員養成など複数のコースを設定し、選択させる。

本学からの派遣学生は英語での授業の他に、派遣先国の言葉を学ぶことができるため、アジアを舞台としてビジネス分野や国際機関での活躍につなげることができる。

短期大学部の「ファーストステージで学びの進化をカタチに」は、短大部を高等教育の「ファーストステージ」として位置づけ、①K. G. C.ベーシックスによる基礎的な人間力の向上②情報・通信技術（Information and Communication Technology=ICT）を利用した授業外の英語学習システムの開発と運用③全学生留学制度によって人間力と英語力を鍛える。

K. G. C.ベーシックスでは、クラス・カウンセラーによる授業の他に、自発的な学習プログラムへの参加を推奨する。例えば、教務部が担当する「ボランティアの推進（幼稚園・保育所体験、シルバー人材センターとの連携など）」、キャリアセンターによる「キャリアデザイン（インターンシップ、アルバイト体験など）」、国際交流部などによる「日本文化研究（留学生との交流、茶道・華道・囲碁など）」で、これらによって人間力向上につなげる。

ICTの開発では、リスニング、リーディングの自主学習をWeb上で行えるオリジナルソフトや、携帯電話に配信する英文法の学習プログラムが考えられている。本学独自、または企業との共同で開発する。



教育GP 質の高い教育推進プログラム

「特色ある大学支援プログラム」と「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム」の二つを発展的に統合し、平成20年に発足した。各大学から申請された、教育の質の向上につながる優れた取り組みを選定して財政支援し、国全体の高等教育の質保証、国際競争力強化に資するのが目的。「質の高い大学教育等推進事業委員会」が、書類審査と面接審査によって選定する。

初年度は488大学（短大、高専を含む）から「教育課程の工夫改善」「教育方法の工夫改善」「それ以外の工夫改善」の3区分に計939件の応募があり、120大学の148件が選ばれた。

中宮キャンパス（大学院・大学・短期大学部）
〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1
TEL. 072（805）2801
穂谷キャンパス（大学・短期大学部）
〒573-0195 大阪府枚方市穂谷1丁目10-1
TEL. 072（858）0021

関西外国語大学
大学院 ― 外国語学研究科 ― 英語学専攻博士課程前・後期 / 言語文化専攻博士課程前・後期
外国語学部 ― 英米語学科 / スペイン語学科
留学生別科
国際言語学部 ― 国際言語コミュニケーション学科
中国交流センター

関西外国語大学短期大学部 ― 英米語学科 / 国際コミュニケーション学科

関西外大の最新ニュースはホームページにも掲載しています
http://www.kansaigaidai.ac.jp/

短大部 英語力アップ、国際理解の深化をめざして
三つの柱、3コース制と連動

取り組みの目的

短期大学部は「英語を中心とした言語運用能力の向上を図るとともに、日本と世界のなかで交流するときに求められる人間力と教養を高め、実践的な職業人又は国内外の学士課程教育でより高度な専門性や教養を考究できる人材の育成」（学則第2章第2条）をめざしている。目的達成のため、英米語学科への短大部一元化を機にカリキュラム改革を行い、3コース制を導入した。また、基礎的人間力の向上を目的に、「K. G. C.ベーシックス」を開講。さらに、英語力レベルアップのツールとして「ICT（Information and Communication Technology）を利用した英語授業外学習システム」を開発運用する。これをベースとした「全学生留学制度（希望者全員）」によって、さらなる英語力アップと国際理解の深化をめざす。

卒業時の英語力レベルとして、英検2級以上、入学時と比べTOEFLは100点、TOEICは200点のスコアアップ実現を目標としている。

カリキュラムを改革

人材養成目的の明確化

本学では、短大生が修得すべき能力などについて、（ア）コミュニケーションツールとしての言語運用能力（イ）日本と世界で交流するときに求められる人間力と教養（ウ）実践的な職業人または国内外の学士課程教育でより高度な専門性や教養を考究できる能力――と考えてきた。

また従来から、短大部の2年間を幅広い分野に進むための「ファーストステージ」ととらえ、習熟度別クラス編成による高度な英語運用能力の修得とともに、国内外の4年制大学への編入学や、実社会での活動の基礎となる専門知識の修得をめざしてきた。

平成20年度のカリキュラム改革では卒業後のキャリア選択を見据え、3コース制をスタートさせ、学習目標をより明確にできるようにした。

コースと必修科目、留学制度の開設

◆**アカデミック・プレップコース**

本学外国語学部、国際言語学部や国内外の他大学への編入学希望者、英語教員希望者らに特化

◆**ビジネス・キャリアコース**

製造業、貿易商社、証券、銀行業などへの就職希望者らに特化

◆**ホスピタリティ・プラクティスコース**

航空、旅行、ホテル、サービス業などへの就職希望者らに特化

同時に、1年生対象の必修科目「K. G. C.ベーシックス」を開講。「全学生留学制度」をスタートさせた。

K. G. C.ベーシックス

卒業後の多様な進路（就職、進学など）を視野に、常識・マナー・コミュニケーション能力などのジェネリックスキル（一般的・包括的な生きる力）を身につけ、「基礎的人間力」の向上を図る。目標は、①学生生活を有意義に送るための情報及び学ぶための方法や知識を修得する②学生（将来の社会人）としての基礎的な常識、マナー及びコミュニケーション力を身に付ける③人権に対する正しい認識を持ち、他人の立場を大切にする④日本に関する知識及び世界に関する知識を備えた地球人になる⑤自己を分析し、将来について考える――の5項目。

クラス・カウンセラーが、週1回授業を行うとともに、授業外でもさまざまな相談に応じる。授業計画の中には、クラス・カウンセラーの授業のほかに、内部・外部講師の講演、各種ガイダンス（進路ガイダンス、生活指導ガイダンス、図書館ガイダンス）も組み込む。

さらに、ボランティア推進、留学生との交流などのプログラムを通じて、自発的な学習を誘導する。

ICT利用システムの開発と運用

英語運用能力向上のため、学生の自主学習を進めやすくするツールとして、ICTを利用した英語授業外学習システムを開発し運用する。内容は、①Webを利用した本学オリジナルの「Listening & Reading Online」による自主学習プログラムの開発・運用②携帯電話を利用した英文法、英単語の自主学習プログラムを産学協同で開発・運用。参加する学生は各学年100人とする。

英語の4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）向上のためには、自習、特にリーディングとリスニングをこなすことが重要だ。そこで、本学のノウハウを投入したオリジナルソフトを開発する一方、企業との連携により能力向上を図れるプログラムを実施することとした。特に携帯電話を利用した英語授業外学習システムは「いつでも、どこでも」学習できる有用なツールになるであろう。

◆**Web上の自主学習**

Web上で利用できるプログラムには、レベル別のリーディング素材（Graded Readers）と、そのストーリー朗読の音声ファイルを載せる。学生はWeb上で自分の語彙レベルとリスニングレベルに合わせて学習できる。

◆**携帯電話の利用**

基本的英文法の学習プログラムを企業と共同開発し、本学で作成するTOEICに即した文法問題を学生の携帯に配信する。同時に、学生のレベルにあった英単語の問題も毎日配信することで、学ぶ習慣が身につく。

全学生留学制度

学生の留学ニーズに応え、英語運用能力と国際理解の向上を目的に、本学の単位互換提携大学のグローバル・ネットワークを基盤とした、全学生対象の短期留学プログラムを新たに設けた。5～15週間の4種類の留学プログラムを設定。派遣予定国は、アメリカなど4か国。

留学プログラムは次の通り。

〈留学時期・期間〉

a 春学期語学留学（3／4月～6／7月）10～15週間

b 秋学期語学留学（8／9月～12月）10～15週間

c 夏期語学研修（7月～8月）5週間

d 春期語学研修（2月～3月）5週間

〈派遣予定国〉アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド

〈留学費用〉留学先大学での授業料は本学負担とする

〈単位認定〉留学中の学修結果に基づき、本学での単位として認定する

今春から始まったK. G. C. ベーシックスの授業

「学びの進化」

プログラム代表者
教職英語教育センター・教授 岡澤 潤次

走りながら改善重ねる

K. G. C.ベーシックス（以下「K. G. C.」）とICT利用英語授業外学習システム、全学生留学制度が3本柱です。「K. G. C.」は基礎的人間力の向上、後の2つは英語力レベルアップをめざしています。

このうち、「K. G. C.」と留学制度は2008年度から既にスタートしています。一方、最大の売りともいえるICT利用は開発途上。ですから、全体のプログラムは走りながら考え、改善を重ねていきます。

大学では各学期15週の授業に出ただけで勉強したとは言えません。90分の授業に対して、180分の授業外学習が必要です。しかし、学生はこれが不十分。そこで、彼らが持っている携帯電話に目を付けました。携帯に問題を配信し、空き時間を使って、音楽を聴く感覚で英語の勉強をしてもらおう。同時にWeb上でも本学独自のソフトでリーディングとリスニングの勉強をしてもらおう。というのが、ICTシステムです。

「留学」は本学最大の特色です。半数近くが4年制に編入学している現状を考え、進学・就職の進路に合わせて、留学希望者は、就職するなら2年、編入学するなら4年の間に、全員が留学できるようにする――というのが「全学生留学制度」です。学生たちに異文化に触れてもらい、語学への意欲を高めるのは、関西外大で教える私たちの責務でもあります。既に今年度の留学希望者は前年度に比べて大幅に増えています。効果は確実に上がっています。

『学び方』を学ぶ」のが、「K. G. C.」の特徴です。マナーや常識を身につけてコミュニケーション能力を高め、日本を知り、世界を知る。また、一般に現代の大学は、リベラルアーツの分野が欠けています。この反省に立って初年次教育が見直されている中で、短大部での先進的な試みが「K. G. C.」といえるでしょう。

本学の短大部で人間力を養い、進学、就職という「セカンド・ステージ」で力を発揮してもらう。これを主眼に、三つの柱を組み合わせたのが本プログラムです。29人のクラス・カウンセラーと接して、学生たちの「学びの進化」は必ず「カタチ」となって現れてくるはずです。（談）

ASEAN＋3大学コンソーシアム
釜山外大・天津外語学院と協定

本年度から始まった文部科学省の教育GPに選定された「ASEAN＋3大学コンソーシアム構想」の実現に向けた包括的提携に関する協定が、関西外国語大学・釜山外国語大学・天津外国語学院の3大学で合意に達し、10月31日、釜山外大で同大学と関西外大の協定締結式が行われた。天津外語学院とは11月10日付で協定書を取り交わした。これで、コンソーシアム構想の第一歩を踏み出したわけで、今後、留学生相互派遣のための具体的な取り決めについて話し合う。

協定書を交換する谷本学長と柳総長（釜山外国語大学で）

協定書によると、協定の目的は「将来のアジアを担う次世代国際人の養成を目指す国際教育研究ネットワーク・大学コンソーシアム構想の実現」で、連携事業の内容としては「3大学間の二重学位取得等を目的とする学生の相互派遣・受け入れ」など。提携事業の実施のために3大学の学長で構成する「コンソーシアムプログラム促進委員会（学長委員会）」を設置する。

釜山での締結式には、本学から谷本義高大学学長、山本甫国際交流部長ら、釜山外大から柳宣圭総長らが出席した。席上、谷本学長は「グローバル化が加速する世界において、欧米諸国とだけでなく、アジア各国との交流をより深め、アジア圏文化社会に精通した人材を育成し、アジア圏の将来の発展に貢献してもらおうというのがこの大学コンソーシアム構想の狙いです。この構想を通じて、関西外大と釜山外大との友情がますます深くなることを望んでいます」とあいさつした。柳総長は「釜山外大は大学の生存をかけて国際化に努力しており、世界各国の大学と二重学位の提携に取り組んでおります。今回のASEAN＋3コンソーシアムは、そのような努力と一致するものです」と強調した。

天津外語学院は修剛学長が協定書に署名した。

「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」実施委員会メンバー

■「ASEAN＋3大学コンソーシアム構想（大学）」

委員長＝谷本義高・大学学長

副委員長＝山本甫・国際交流部長

委員＝豊田裕之准教授（国際交流部次長）、靳衛衛教授（中国交流センター長）、相原里美講師、松宮新吾教授、田村幸男事務局長、吉川淳三教務部課長、安永吉一学生部課長

（別に、アドバイザーとしてP・S・ゴールドバーグ講師）

■ファーストステージで学びの進化をカタチに（短大部）

委員長＝谷本榮子・短大部学長

副委員長＝廣本和司教授（キャリアセンター所長）、岡澤潤次教授（FD委員長）

委員＝井登大策教授（教務部長）、山本甫・外国語学部教授（国際交流部長）、宮野智靖教授、浅田忠久准教授、田村事務局長、吉川教務部課長

外交講座 山野内 北米一課長が講演
米大統領選と日米外交

学生とのやり取りにも熱がこもった

本学恒例の「外交講座」が10月29日、中宮学舎のマルチメディアホールであり、外務省北米局北米第一課長の山野内勘二さんが「アメリカ大統領選挙と日米外交の行方」をテーマに講演した。遠隔授業システムを使って穂谷学舎にも中継され、大学院や外国語学部、国際言語学部、短大部の学生ら約200人が受講した。今年からは市民にも公開、米大統領選挙が11月4日に迫っていることや、山野内さんが受講者に質問して答えを引き出すやり取りもあって盛り上がった。

山野内さんは会場の学生たち4人に日本の外交課題を一つずつ挙げさせた上で、「北朝鮮や金融危機、地球環境、食糧などの問題を、米国と手を携えて解決策を考えるべきだ」と日米外交のあり方を説いた。大統領選については、①80年ぶりに正副大統領候補4人とも全くの新人②4人のうち3人が史上初の要素を持つ多様性③予備選挙でことごとく外れた世論調査――という今回の特徴を紹介。世論調査結果と違った結果が出る「ブラッドリー効果」にも言及し、選挙の仕組みや共和党・マケイン、民主党・オバマ両候補の資金力、人脈などについて説明した。

「日常の仕事は？」という質問に、山野内さんは首相への説明資料を作る作業にふれ、「首相の一言一言が外交上の政策になるので、『言葉』が非常に大切と感じている」と話し、語学とコミュニケーション力を磨いている学生たちは共感を覚えた様子だった。

独・カナダの2大学と協定
提携校317大学に

本学はドイツのバンベルク大学、カナダのハンバー大学と単位互換交換校の協定を結んだ。またカナダのウィルフリッドローリエ大学との協定を解消した。これで、本学の提携校は317大学となった。

バンベルク大学

大学のあるバイエルン州バンベルク市は、フランクフルト空港から列車で約3時間。創立は1647年。キャンパスは町全体の歴史的景観に組み込まれている。学生数は約9000人、50か国以上の約180大学と提携している。

本学からは英語を主とする交換留学（ドイツ）とドイツ語を主とするドイツ交換の2プログラムで派遣可能。9月と3月に開講されるドイツ語集中コースを交換留学生も履修できる。

ハンバー大学　1967年創立。職業訓練専門の公立大学。トロント市内に3キャンパスを持ち、学生数はフルタイム1万9000人（うち留学生は75か国700人）、パートタイム5万5000人。教職員数約1万5000人。

すべてのプログラムは理論から実践的職業技術まで幅広く学べ、就職に必要なスキルの習得を目標としている。教授陣は民間企業で働いた経験を持っており、少人数制の授業スタイル。ビジネスマネジメント、ホスピタリティー、ツーリズムなどの分野がある。

■3月21日（土）に学位記授与式

2008年度の大学院、大学、短期大学部の学位記授与式（卒業式）の日程が決まった。来年3月21日（土）、3回に分けて谷本記念講堂で行う。

第1回目は、穂谷学舎の国際言語学部と、最後の卒業式となる短期大学部国際コミュニケーション学科の合同で、午前9時集合、9時半から開式。第2回目は大学院、外国語学部の合同で、午前11時半集合、正午開式。第3回目は短期大学部英米語学科単独で、午後2時集合、2時半から開式。

各回の式典終了後、学内の食堂で卒業パーティー（自由参加）を予定している。

■初の海外指定校・韓国と豪

本学は、韓国の高校1校、豪州の高校5校を特別入試の指定校にすることを決め、6月と9月の教授会で承認した。海外の指定校は初めて。

来春卒業予定の両国の高校生から「日本人学生に交じって日本語で授業を受けたい」との希望が寄せられ、本学も今後の海外の高校との提携を考慮、受け入れを決めた。

今回、韓国の高校生1人が特別入試を受験、本学で面接を受け、外国語学部に合格した。

豪州の高校生については書類選考のみとし、国際言語学部で受け入れる。高校と協定内容について協議している。

■現代GPシンポを開催

本学が進める現代GP「学生人材バンクによる地域国際化の推進」に関連して、「TESOLとe-Learningによる英語教育の活性化」がテーマのシンポジウムが11月8日、中宮キャンパスのマルチメディアホールで開かれた。オーストラリア・フリンダース大学のIELI (Intensive English Language Institute)のボニー・コスレン所長、e-Learning担当マネジャーのジョン・マーフィーさんの二人が出席、午前の部では、「中学生学びング・キャンパス@関西外大」として中学生を対象とした英語活動「Good Day, Mate!!（オーストラリアの再発見）」、午後の部は①e-Learning②TESOLの基礎理論と実践――を行った。

「中学生学びング・キャンパス@関西外大」に参加したのは枚方・寝屋川両市の公立中学生25人。コスレン所長の指導で、絵や体の動きを使って英語を理解する勉強などを行った。午後の部では、教職課程を履修している外大生約70人、小学校教員や教育委員会指導主事らが参加、マーフィーさんが講師役となり、フリンダース大学と遠隔通信でつないで、英語によるコミュニケーションの取り方を実践した。

中島康博准教授が逝去

短期大学部英米語学科の中島康博准教授が10月23日に死去し、同26日、北海道旭川市で葬儀が営まれた。38歳だった。

中島准教授は闘病中、担任の学生たちに伝えてほしいと、次のようなメッセージを母親の修子さんに託している。

「年度途中で入院することになり、クラスの学生に迷惑をかけて申し訳ない。君たちにはすばらしい未来が待っているのだから、どんなことにもくじけず頑張ってほしい」

中島准教授は北海道教育大学旭川分校卒。米国イリノイ大学アーバナシャンペーン校でTESL修了、M. A. 取得。2007年外国語学部非常勤講師、08年短大部准教授となり、短大部でリーディング＆ライティング、外国語学部で商業英語の授業を担当するようになった直後、病魔に倒れた。

春派遣の71人に合格証書

9か国28大学へ羽ばたく

合格証書を手に喜色満面の春派遣の学生

春派遣の代表に合格証書を授与

2009年春に派遣される留学生の合格証書授与式が1月15日、中宮キャンパス本部棟の多目的ルームで行われ、谷本榮子理事長は、式辞の中でかつてない経済危機によって混沌とする世界の現状を踏まえ、留学を通して視野を広げることの重要性を強調した。合格証書を授与されたのは、9か国28大学に派遣される71人で、このうち1年半の英語／推薦留学が3人、1年の交換留学29人、英語／レギュラー留学35人、日本語インターン4人となっている。

授与式ではまず、谷本理事長からプログラムごとの代表に証書が手渡された。このあと式辞を述べた理事長は「留学を通して、個人としての能力やスキルを磨くだけでなく、広い世界に目を向けてください」と要望。続いて山本甫国際交流部長があいさつし、「きびしい時代だからこそ国際的な知識を持った人材が求められる。やればやっただけ君たちの血と肉となることを忘れずに」と諭した。留学準備コースの担当教員を代表して祝辞を贈ったスティーヴン・フェドロビッチ准教授はアメリカの大学生だったときに本学の留学生別科に留学した体験を交えながら「日本人学生ばかりでかたまってはいけない。何にでも積極的に参加し、経験を積みなさい」とアドバイスした。

谷本理事長「広い世界に目を向けて」

最後に、派遣学生代表の外国語学部英米語学科2年、河瀬楓子さん（豪州クイーンズランド工科大学・交換留学）と同、桑畑佑紀さん（米国アラバマ大学・英語／レギュラー留学）が力強く留学の決意を表明した（**要旨は8面**）。

今春派遣される長期留学生としては、このほかに豪州の6大学、カナダの3大学に派遣される139人の英語留学生が決まっている。

中宮学舎で830人受験
大学入試センター試験

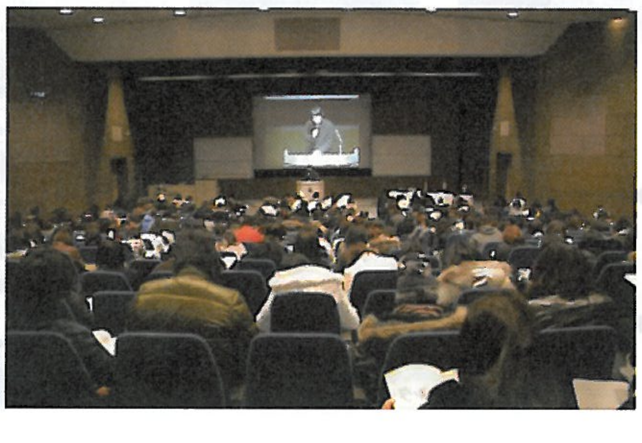
約54万4000人が出願した大学入試センター試験は1月17、18の両日、全国738会場で行われた。本学では830人が中宮学舎の14教室で問題と取り組んだ＝**写真**。初日は国語、外国語など4教科、2日目は理科、数学の2教科が行われた。英語のリスニングでは、過去3回と同様、全国各地の会場で機器の不具合によって、再テストを行うトラブルが相次いだが、本学ではなかった。

08年最後

入試対策説明会も兼ねる
オープンキャンパスに450人

08年最後のオープンキャンパスが12月20日、中宮キャンパスで開かれ、高校生や保護者ら約450人が参加した＝**写真**。08年のオープンキャンパスは2回の穂谷キャンパス単独開催を含め8回行われ、参加者総数は約8600人となり、前年を約150人上回った。

12月開催分は、一般入試前期日程（2月7、8、9日）の対策説明会を兼ねており、本学教員が英語や国語の出題傾向を解説した。英語では「英文を精緻に、素早く理解する力が重視されている。リスニングは英文が長いので集中力を養うことが大切」、国語では「09年度入試から表現力を問う問題が加わるので、さまざまなジャンルの本を読んで語彙を増やしておくこと」とアドバイスした。



20年度卒業式は3月21日
3回に分け谷本記念講堂で

平成20年度の学位記授与式（卒業式）の日程が決まった。3月21日（土）に3回に分けて、中宮学舎の谷本記念講堂で行われる。

第1回目は、穂谷学舎の国際言語学部と最後の卒業式となる短期大学部国際コミュニケーション学科合同で、午前9時集合、9時半開式。第2回目は大学院、外国語学部の合同で、午前11時半集合、正午開式。第3回目は短期大学部英米語学科単独で、午後2時集合、2時半開式となっている。

各回の式典終了後、学内の食堂で卒業パーティー（自由参加）も開かれる。

本学の「教育GP」を紹介
横浜で大学改革合同フォーラム

「大学教育改革プログラム合同フォーラム」（主催・文部科学省、財団法人文教協会）が1月12、13両日、横浜市のパシフィコ横浜で開かれ、本学は、「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定された「『ASEAN＋3』大学コンソーシアム構想」（大学）、「ファーストステージで学びの進化をカタチに」（短期大学部）の2教育プロジェクトを1日目のポスターセッションに出展、取り組み内容を紹介した。

本学の2プロジェクトは、それぞれ独自のブースを設けてポスターを張り、パンフレットを配布した。各ブースでは、岡澤潤次教授、廣本和司教授、豊田裕之准教授、田村幸男事務局長、吉川淳三教務部課長が来訪者への説明に当たった。

大学のブースでは、「海外の大学とコンソーシアムを組むスケールの大きさに驚いた。関西外大にしかできないこと」と賞賛の声が聞かれた。

短大部のブースは、授業外学習のツールとして開発する携帯電話を利用した英語学習システム「ICT」と、全員留学制度に注目した来訪者が多かった。

第2回航空ガイダンス

ANA、JAL計4社が参加

1100人真剣に聴き入る

航空業界を目指す学生のための第2回航空ガイダンスが2月23日、中宮学舎で開かれた。日本航空インターナショナル、JALスカイ関西、全日本空輸、エーエヌエースカイパルの4社が参加。谷本記念講堂で各社の担当者が自己紹介し、4教室に分かれて各社ごとに3回の説明が行われた。客室乗務員などで活躍する本学卒業生らの就職活動や職場での体験談、人事担当者による採用方針や試験の日程などに、計約1100人の学生が耳を傾けた＝写真。

谷本記念講堂では、日本航空出身で中宮キャリアセンター所長の森川長俊・外国語学部教授があいさつ。「中長期的にみると航空産業は希望が持てる。就職活動に際しては、家族とじっくりコミュニケーションを取ること、キャリアセンターをフル活用すること、新聞を毎日読んで日本と世界の動きを常にウオッチすること。この3点を心がけてほしい」とアドバイスした。

教室では、DVDやパワーポイントを使って、業務内容や求められる人材、採用方針、就職試験の流れなどについての説明があった。質疑応答では、グランドスタッフの航務業務について、参加学生が「英語を使う頻度は?」と質問。担当者からは「パイロットなどへのブリーフィングのほか、無線のやり取りは原則として英語。語学力を生かせる職種です」という回答があった。

2008年度の航空業界への就職内定者は同日現在で112人。このうち客室乗務員は▽日本航空インターナショナル6人▽全日空、エアーニッポン各5人▽ジェイエア4人▽JALエクスプレス3人▽エミレーツ航空、シンガポール航空各2人▽JALウエイズ、日本トランスオーシャン航空、スカイネットアジア航空各1人——の計30人となっている。またパイロットでも、航空会社の自社養成3人、海上自衛隊飛行要員1人の計4人、航空管制官にも男女1人ずつ2人の就職が決まっている。

今春の内定実績まとまる

2010年就活スタート

大学93% 短大部77%

今春卒業した就職希望者の内定率(3月1日現在)がまとまった＝表。大学は93・2%(前年同期95・8%)、短大部は76・9%(同88・3%)で、前年を下回っている。文部科学省と厚生労働省がまとめた2月1日現在の内定率全国推計は、大学が86・3%(前年同期88・7%)、短大が75・8%(同76・7%)だった。

金融危機、景気悪化の中で2010年春採用に向けての就職戦線が本格化しており、本学でも就職を希望する大学の新4年生、短大部新2年生が忙しさを増している。学内では4月から、キャリア講座、就職ガイダンス、進路ガイダンスなどを連続的に開催。また、各年次別の就活サポートも始動する。

【大学】 (3月1日現在)

	性別	就職希望者	内定者	内定率
英米語学科	男子	370	327	88.4
	女子	819	788	96.2
	計	1,189	1,115	93.8
スペイン語学科	男子	78	63	80.8
	女子	128	122	95.3
	計	206	185	89.8
外国語学部	男子	448	390	87.1
	女子	947	910	96.1
	計	1,395	1,300	93.2
	(前年)	(1,432)	(1,372)	(95.8)
国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科	男子	148	139	93.9
	女子	375	348	92.8
	計	523	487	93.1
	(前年)	(547)	(524)	(95.8)
合 計	男子	596	529	88.8
	女子	1,322	1,258	95.2
	計	1,918	1,787	93.2
	(前年)	(1,979)	(1,896)	(95.8)

【短期大学部】

	性別	就職希望者	内定者	内定率
英米語学科	男子	16	3	18.8
	女子	359	286	79.7
	計	375	289	77.1
国際コミュニケーション学科	男子	4	2	50.0
	女子	114	88	77.2
	計	118	90	76.3
合 計	男子	20	5	25.0
	女子	473	374	79.1
	計	493	379	76.9
	(前年)	(506)	(447)	(88.3)

採用情報これで万全

企業セミナーに7000人

就職希望の学生に採用側の人事担当者らが情報提供する「企業セミナー」が2月12日から20日にかけて中宮学舎で開かれた。参加企業は191社で、実質7日間開かれ延べ約7000人の学生が出席。教室や学生ラウンジに設けたブースでは、各社の担当者が自社の業績や業務内容、採用のポイント、必要な人材などを詳しく説明した＝写真。出身地での就職を希望する学生のために、石川、岡山、広島など西日本9県の大阪事務所から担当者を派遣してもらい、Uターンコーナーも設けた。

開催中の13日から、午前中に就職活動基礎講座を開講。自己分析の仕方や筆記試験対策の講義があり、延べ約700人の学生が受講した。

新入生(大学)は全員受検を

短大部はK.G.C.ベーシックスで

「自己発見レポート」4月中旬に実施

4月中旬、新入生全員を対象に、適性検査「自己発見レポート」受検が行われる。目的はキャリア形成のために、▽大学生活の過ごし方▽進路を考える準備▽自分の強み▽自分の可能性を広げる方法▽仕事(職業)の知識——について入学時から意識しておくこと。自宅でマークシート方式の検査用紙に記入し、キャリアセンターに提出する。検査結果が返却されたら、5月以降4回実施される説明会で、活用方法を詳しく知ることができる。

受検方法などは次の通り。

【申し込み・受検期間】
4月13日(月)～18日(土)

【申し込み方法】
学内の証明書・申込書自動発行機で発行される申込書と引き換えにキャリアセンターで検査用紙を受け取る

【受検】
持ち帰って期間内に受検

【提出期間】
4月14日(火)～20日(月)。キャリアセンターに提出

【受検料】
2000円

なお、短期大学部はK.G.C.ベーシックスの授業で実施する。

PICK UP!!

■TOEIC日程決まる

2009年度の学内TOEIC実施日程が決まった＝表。申し込みと受験料支払いは休講日を除いて、学内の証明書・申込書自動発行機で。問い合わせは中宮・穂谷両学舎のキャリアセンター。

2009年度 学内TOEIC実施日程

試験日 (中宮13:00～15:30) (穂谷13:30～16:00)		申込期間 (中宮09:00～20:00) (穂谷09:00～17:00)
5月16日(土)	中宮	4月27日～5月8日
	穂谷	4月27日～5月2日
6月20日(土)	中宮	6月1日～5日
	穂谷	6月1日～6日
10月17日(土)	中宮	9月28日～10月2日
	穂谷	9月28日～10月3日
12月12日(土)	中宮	11月24日～12月1日
	穂谷	11月24日～30日
2月24日(水)※	中宮	1月18日～22日
	穂谷	1月12日～2月10日

※穂谷の第5回目は10:30～13:00

就職に関するQ&A

Q キャリアセンターに相談できることって何ですか?

A 就職に関することなら、どんな相談にも応じています。進路を選択する第一歩はキャリアセンターを訪れることです。(「未来履歴書」より)

携帯電話で英語学習
自学自習システム運用開始
短大部

短期大学部の学生を対象にした英語自学自習システムとして開発された「TOEICモバイル」の運用が始まった。文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」に選定された短大部の「ファーストステージで学びの進化をカタチに」の一環で、テストに参加する「eラーニング・メンバー」の携帯電話にTOEIC学習用の文法と語彙の問題が毎日3題、メール送信される。自宅に限らず通学中の電車の中でも取り組めるのが特徴で、実力の向上が確かめられれば、規模を拡大することにしている。

eラーニング・メンバーは特定のクラスで募った希望者で、卒業まで投げ出さずに続けることが条件。5月2日、メンバーに対する説明会があり、約120人が集まったが、最終的には200人近くになる予定だ。廣本和司教授の概要説明のあと、開発を担当したアルク教育社のスタッフが、TOEICのスコアアップのための全体システムと年間スケジュールを解説した。

それによると、まずアルクのプロの学習アドバイザーがメンバーの個別相談を行い、各自の学習のレベルや方向を決める。その後も、アドバイザーは定期的に学内で個別相談を受けることになっている。メンバーは、運用前の実力を調べるため5月中にTOEICを受験、TOEICモバイルに取り組むと共に、同社が夏休み中に行うレベル別集中講座を受講する。9月からはインターネット利用の「リスニング&リーディング」のトレーニングが行えるようになる。今年12月にTOEICをもう一度受験し、自学自習の成果を確かめる。

参加者は、説明会の最後に、メールを受信するための携帯電話の設定を行い、問題の受信を確認していた。

来春から200人減
短大部の定員900人に

本学は短期大学部(英米語学科)の入学定員を来春から200人削減して900人とすることを4月21日の教授会に提案、承認された。近く、文科省に届け出るとともに学則を変更する。

定員削減の理由は定数の確保と学力水準の維持。少子化のあおりなどで、短大の受験生は全国的に減少傾向にあり、本学短大部の志願者数も2009年度入試で第2志望も含めて約3000人と、前年度比で600人弱(16・5%)減少した。

今回の定員削減でも、本学短大部が全国最大規模であることは変わらない。入試部は「受験生の短大離れは今後も加速する懸念が大きい。定員を見直すことで、学生の質の維持も期待できる」と話している。

サザンクロス大のアカペラグループ
ハートフルな歌声響く
中宮キャンパスで無料コンサート

本学と単位互換提携している豪州・サザンクロス大学のアカペラメンバー「イザベラ・ア・カペラ」=写真=による無料コンサートが4月20日午後零時15分から45分間、中宮キャンパスの円形ステージで行われ、さわやかなハーモニーが昼食時の学生を楽しませた。

日本と親善を図るため4月10日に来日。豪州・バロナ市と交流を深めている大阪府交野市や福岡、奈良、京都の施設などを訪れ、コンサートを開催。本学にも立ち寄り、25日に帰国した。

メンバーは、同大音楽部の学生と卒業生らで、ソプラノ、バス、アルト、テノール各2人と指揮者、独唱のソプラノ歌手の計10人。「さくらさくら」や「ビリーブ」「天空の城ラピュタ」の主題歌など12曲を披露。ハートフルな歌声がキャンパスに響き渡った。

5項目でトップ
2010年度版大学ランキング

本学は海外留学生派遣数、国際ボランティア参加数、エコ・ボランティア参加数、キャビンアテンダント採用数、編入学者数の5項目で1位――。このほど発売された『2010年版大学ランキング』(朝日新聞出版)で、本学は幅広い分野でランキング入りし、評価が高まっている。

ランキングは、さまざまな調査結果を集計、国内の745大学について、総合、教育、就職、研究、財政、社会、入試の分野別に掲載している。

海外留学生派遣数(2007年度)は16単位以上の取得者が対象で、本学は881人。2位の早稲田大学の710人を引き離した。国際ボランティア参加数70人、エコ・ボランティア参加数11人は、ともに2位を1人上回った。キャビンアテンダント採用数は34人で、2位の名古屋外国語大学、3位の青山学院を抑えた。編入学生の491人も2位を100人以上引き離した。

惜しくも2位になったのが、常勤外国人教員数。1位立命館大学109人に次ぐ99人だった。このほか、学生の満足度(2007年)7位、中学校教員採用数10位、女子学生数17位、大学図書館の学生への貸出冊数32位、オープンキャンパス参加数54位などとなっている。

スポーツの記録

ソフトテニス部

■第54回全日本女子選抜大会
(4月4、5日、東京体育館)
【ダブルス】
▽1回戦
○岩本・伊山 4−1 北海道尚志高
▽2回戦
●岩本・伊山 0−4 ナガセケンコー

■関西学生選手権大会
(4月18、19日、関西大他)
【女子ダブルス】
▽2回戦
○岡田・伊山 5−1 京都大
●奥西・居原田 3−5 同志社女子大
●原田・鈴木 0−5 神戸大
●山本・緒方 3−5 大阪樟蔭大
○杉岡・松尾 5−3 神戸松蔭女子大
●三木・小原 4−5 関西大
○岩本・佐東 5−1 神戸大
○船越・谷本 5−1 大阪芸大
▽3回戦
●岡田・伊山 3−5 桃山学院大
●杉岡・松尾 2−5 神戸松蔭女子大
●岩本・佐東 4−5 滋賀女子短大
●船越・谷本 0−5 神戸松蔭女子大
(本学はベスト64)

■関西学生春季リーグ戦
(4月25、26日、福知山市営コート他)
【女子1部】
▽1回戦
●本 学 1−2 千里金蘭大
▽2回戦
●本 学 1−2 神戸松蔭女子大
▽3回戦
○本 学 2−1 立命館大
▽4回戦
●本 学 1−2 関西大
▽5回戦
●本 学 1−2 関西学院大
(本学は1部5位)

硬式テニス部(女子)

■第18回ミキプルーン神戸オープン
(4月5日〜11日、兵庫・ブルボンビーンズドーム)
【シングルス】
▽決勝1回戦
○喜多 清美 2−0 京都外大西高
▽決勝2回戦
○喜多 清美 2−1 駿台甲英高
▽決勝3回戦
●喜多 清美 1−2 関学大
(喜多はベスト8)

■ブリジストン京都オープン2009
(4月13日〜19日、小畑川中央公園テニスコート)
【シングルス】
▽1回戦
●喜多 清美 0−2 びわこ成蹊大
○吉原 優子 2−0 同志社大
○安井 仁美 2−0 園田女子大
○西村 綾香 2−0 恵那峡テニスクラブ
▽2回戦
●吉原 優子 0−2 Team N.C.Y
●安井 仁美 0−2 びわこ成蹊大
●西村 綾香 0−2 同志社大
【ダブルス】
▽1回戦
●喜多・吉原 1−2 安井(本学)・親和女子大
○宮本・山口 2−0 INOUEテニスアカデミー・パブリックテニス洛西
▽2回戦
○安井(本学)・親和女子大 2−0 同志社大
●宮本・山口 0−2 園田女子大
(宮本・山口組はベスト8)
▽3回戦
●安井(本学)・親和女子大 1−2 同志社大
(安井組はベスト4)

バドミントン部

■大阪学生選手権
(4月7日〜15日、大阪市中央体育館他)
【男子2部】
○本 学 2−1 大阪教育大
○本 学 2−1 大阪学院大
○本 学 3−0 摂南大
▽入れ替え戦
●本 学 0−2 大阪産大
【男子ダブルス】
▽塩野・酒井ベスト32
▽中嶋・木内、上嶋・森本ベスト64
【男子シングルス】
▽塩野ベスト32▽上嶋、森本ベスト64
▽中嶋、木内、酒井ベスト128
【女子1部】
○本 学 2−1 大体大
●本 学 1−2 大阪教育大
●本 学 0−3 関西大
【女子ダブルス】
▽石岡・冨田ベスト8
▽高岡・白藤、松本・三角、池田・和田、盛・片岡ベスト16
【女子シングルス】
▽高岡ベスト16
▽冨田、松本、池田、白藤、三角、盛ベスト32
▽和田、片岡ベスト64

《穂谷》
【男子5部】
○本 学 2−1 帝塚山学院大
●本 学 0−3 阪南大
【女子4部】
●本 学 1−2 帝塚山学院大
○本 学 2−1 大阪芸大

アーチェリー部

■第44回関西学生リーグ戦
(4月5日〜5月5日、関西大他)
●本 学 2441−2956 大阪産大
○本 学 2585−2220 兵庫県立大
●本 学 2466−2617 滋賀大
○本 学 2590−2545 大阪府立大
●本 学 2684−2862 京都大
(本学は2部残留)

卓球部

■第51回関西学生新人大会
(4月25、26日、京都府立体育館)
【女子団体】
▽1回戦
○本 学 3−0 武庫川女子大B
▽2回戦
○本 学 3−1 関西学院大
▽3回戦
●本 学 2−3 龍谷大A
(本学はベスト8)
【女子シングルス】
▽2回戦
○梁 梦娜 3−0 大阪教育大
○安達 佳織 3−2 武庫川女子大
●古川ひとみ 0−3 龍谷大
●廣田奈生子 0−3 神戸松蔭女子大
○山岡 紀子 3−0 大体大
●坂元 渚 0−3 関西学院大
●町田 香織 0−3 近畿大
▽3回戦
●安達 佳織 1−3 大阪経法大
●山岡 紀子 0−3 京都産大
○梁 梦娜 3−1 天理大
▽4回戦
○梁 梦娜 3−2 京都産大
▽5回戦
●梁 梦娜 0−3 近畿大
【男子シングルス】
▽2回戦
○真部 厳 3−2 大谷大
▽3回戦
○真部 厳 3−1 関西大
▽4回戦
●真部 厳 0−3 立命館大

女子バスケットボール部

■第30回全関西女子学生選手権大会
(4月12日〜5月4日、なみはやドーム他)
▽1回戦
○本 学 98−27 びわこ成蹊大
▽2回戦
○本 学 78−52 大阪大谷大
▽準決勝
●本 学 52−64 大体大
▽3位決定戦
○本 学 63−59 立命館大
▽優秀選手賞=金原沙織

男子バスケットボール部

■第36回関西学生選手権大会
(4月18日〜5月5日、大阪市立東淀川体育館他)
▽2回戦
●本 学 54−75 大経大

剣道部

■大阪学生剣道第48回男子選手権大会・第59回女子選手権大会
(4月26日、関西大中央体育館)
【男子個人】
▽1回戦
●清瀬 満生 ――㋱ 大経大
【女子個人】
▽1回戦
○松本 美那 反則勝ち 大体大
○新見 杏奈 ㋙㋱− 四條畷短大
●古川 美帆 ――㋙ 大阪府立大
○赤井 友美 (ド)㋙− 大阪薬科大
●倉井 彩 ――㋱ 近畿大
○中西 由香 (ド)―― 関西大旧Ⅱ部
○堂出 章子 ㋱―― 大阪府立大
●浅野 有紀 ――㋱ 摂南大
▽2回戦
○松本 美那 ㋱㋙−㋱ 追手門学院大
●新見 杏奈 反則負け 近畿大
○赤井 友美 ㋙―― 大阪学院大
●中西 由香 ――㋱ 大阪教育大
●堂出 章子 反則負け 近畿大
▽3回戦
●松本 美那 ――㋙ 大阪教育大
(松本選手は奨励賞受賞)
●赤井 友美 ――㋙ 大阪教育大

陸上競技部

■第57回大阪学生対校選手権大会
(4月10、11日、万博記念公園陸上競技場)
【女子】
▽八百㍍決勝
⑥古田玲子2分26秒11
▽千五百㍍タイムレース決勝
⑩麻植由香梨4分59秒43
▽五千㍍決勝
⑬岡美奈恵19分27秒12
▽二百㍍予選
⑤羽野彩加26秒87
▽4×百㍍リレー決勝
④本学(羽野、石野、大野、永岡)49秒04
▽百㍍決勝
④石野恵理12秒80
▽走り高跳び決勝
⑤大驛美帆1㍍59
▽走り幅跳び決勝
⑪冨田真美5㍍12 ⑫加藤有紗5㍍07
⑱永岡飛鳥4㍍71
▽三段跳び決勝
②姥谷綾那11㍍90 ⑦大野未来10㍍93
⑨加藤有紗10㍍30
【男子】
▽百㍍準決勝
③栄枝裕二11秒10 ⑤日向駿介11秒35
▽二百㍍準決勝
⑦日向駿介23秒09
▽四百㍍予選
⑦小川真樹53秒98 ⑦山下康二郎55秒76
▽八百㍍予選
⑧高畑光志2分09秒55
▽百十㍍障害予選
⑤馬場健一15秒20 ⑥東慧也16秒63
▽四百㍍障害予選
③馬場健一56秒04 ③阿部洋樹55秒56
▽4×百㍍リレー決勝
⑤本学(日向、栄枝、横山、河西)42秒13
▽4×四百㍍リレー予選
⑥本学(阿部、河西、平松、横山)3分22秒94
▽千五百㍍決勝
㉕浦上祐樹4分23秒55
▽一万㍍決勝
⑰浅田周平34分59秒04
▽走り高跳び決勝
③宮下亮平2㍍05
▽棒高跳び決勝
④辻篤志4㍍60
▽やり投げ決勝
⑦山本拓哉59㍍26 ⑬前田拓哉50㍍82

「キャリア講座」が授業科目に
来春から 中宮の全学生が対象

中宮キャリアセンター主催の「キャリア講座」が2010年度から、外国語学部、短大部の正式な授業科目になる。春学期、秋学期に各15回開く。大学院生や穂谷の学生も聴講できる。

外国語学部は09年度入学生の場合、「総合科目F・G」で春学期、秋学期の各2単位。08年度以前入学生の場合は、通年の「総合科目I・II・III」で各4単位。1年次配当科目「キャリア・デザイン」の発展科目と位置づける。短大部は通年・4単位の「総合科目」で、「K.G.C.ベーシックス」の補完科目とする。

いずれも、授業の中に各業界から招いた専門家の講演を取り入れ、業界を取り巻く経済問題にまで踏む込んだ授業にする。時間割の都合で履修できない学生や特定業界だけの受講を希望する学生の聴講も可能。正規受講生と聴講生は座席を分け、また、キャリアセンタースタッフが常時補助して、授業運営に支障が出ないようにする。

キャリア講座は07年度から毎年、外部の講師を招いて開催。09年度は週1回、計28回開く予定だ。キャリア教育ニーズの高まりを背景に、将来の進路を念頭に置いた初年次からの授業科目新設を、両学部の教務委員会、キャリアセンター委員会が検討していた。

提供講座3シリーズ 10～12月に開講

中宮キャリアセンターは金融、証券、旅行各業界計3社の協力を得て10月～12月、企業による提供講座3シリーズ（いずれも4回連続）を開く。

シリーズのテーマと日程は次の通り。

三井住友銀行「国際化の時代の銀行」＝10月26日、27日、28日、30日

野村證券「資本市場の役割と証券投資」＝11月30日、12月1日、2日、4日。なお、11月26日（木）のキャリア講座（マルチメディアホール）でも、同社の講師が「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」をテーマに講演を予定

JTB「旅行業の現状とその多様性」＝12月14日、15日、16日、18日

提供講座は本学の全学生が対象で、いずれも午後6時20分～7時50分。各回ともキャリアセンターへの申し込みが必要。会場は中宮キャンパスの教室を予定している。

第1回トップ講演会

「夢だった起業」を成し遂げて
不動産会社社長 阿江九美子さん

今年で4年目となる2009年度第1回（通算第7回）の「トップ講演会」が10月2日、中宮キャンパスのマルチメディアホールで開かれた。講師は、外国語学部英米語学科卒業後、本学大学院で修士号を得た株式会社ライフイノベーション社長、阿江九美子さん。「『起業』する選択――不動産業界への異業種参入――」をテーマに「『起業したい』と思うだけでは前に進みません。変化に敏感であり、偶然をチャンスに変えて、キャリアにつなげていく力をつけましょう」などと話した＝写真。

中宮キャリアセンター主催のトップ講演会では毎回、経済界で活躍する卒業生を講師に招いており、女性は2人目。また、この日はスペイン語学科卒業のシンガーソングライター、松田陽子さんが司会を務めた。会場には、71年卒のモリテックスチール社長、清水正廣さん、73年卒のロウソクの「カメヤマ」前社長、新庄哲三さんとサンスター顧問、安岡重人さんら過去に講師を務めた卒業生も姿を見せた。

阿江さんは1986年に外国語学部英米語学科を卒業し、いったん学習塾を経営するなどした。その後、本学大学院に進学。英語学専攻で修士号を得て、神戸市の大学で教壇に立ったが、起業の夢を捨てずにチャンスを生かし、不動産業で夢を実現した。

講演では、2003年に不動産会社を創立した際の、建築家ら有能な人物との出会いや、大手コンビニとのコラボレーションでさまざまな商業施設を開店させた実例などについて、パワーポイントを使って紹介した。

司会の松田さんはスペイン語学科卒業後さまざまな経験を積み、現在は歌手のほか司会、通訳としても活動。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の活動にも協力している。

第2回は11月6日 講師は、伏谷博之さん

今年度の第2回トップ講演会は11月6日（金）午後4時40分から、中宮キャンパスで開く。講師は「オリジナル」社長で前タワーレコード社長の伏谷博之さん（外国語学部英米語学科卒業）。市民の参加も自由。問い合わせは中宮キャリアセンター。

企業の現場で学ぶ
穂谷 フィールドワーク業界研究

国際言語学部の学生が企業を訪問し、職場を見学する「フィールドワーク業界研究」が9月に行われた。穂谷キャリアセンターがキャリア支援の一環として今年度からスタート。株式会社日新・東摩耶営業所（8日）、京都銀行本店（9日）、日本電産本社（15日）の順に開催し、1～3年生計約60人が参加した。

国際物流大手の日新では、本学卒業生27人が勤務している。神戸市の東摩耶営業所は、「日本トイザらス」の西日本各店舗向けに中国などから集まる商品の保管、配送などを担当。参加した学生20人は、まずコンピューター制御の全自動倉庫へ。杉井隆・同営業所長の説明をメモし、バーコードラベルを瞬時に読み取って仕分けする出庫ラインなどを見学した＝写真。

施設紹介のビデオを見た後、同社関西管理室の濱野伸一・総務課長から、会社の概要や採用状況などの話を聞いた。本学スペイン語学科OBで同社大阪営業第一部の小阪直樹・陸運営業課長も仕事内容や職場の様子などを紹介。学生の質問には、「国際物流の仕事は地味だが、やりがいがある」などの説明があった。

小型電動モーターのトップ企業、日本電産本社（京都市）では、本学卒業生の女性社員2人から説明を受け、研究開発部門などを見学。3日間を通して、「業界や企業を具体的にイメージできた」「日々の仕事がよくわかった」など、学生には好評だった。

『交換留学』と『就職』
本学OGが講演

留学直前就職ガイダンスが7月27日から3日間、中宮学舎で開かれ、長期留学を控えた約200人が参加した＝写真。3日目には、毎日コミュニケーションズ「マイナビ国際派就職」の編集を担当する俊野香織さんが「『交換留学』と『就職』――キャリア形成につながる留学生活の送り方――」をテーマに講演。俊野さんは本学の卒業生で、在学中に米国へ2年間学位留学し、早大大学院で国際関係学を学んだ経歴の持ち主。キャリア形成を見すえた心構えについて、「目的意識を明確にした留学生活を送ることが最も大切」と話した。

俊野さんは一人ひとりが「留学」と「キャリア」を自分の中で整理できるよう、▽将来なりたいもの▽なぜ留学するのか▽留学経験が、どのようにキャリアにつながっていくか――について、受講者にその場で書かせ、体験も交えてアドバイスした。

27、28両日はキャリアセンター担当者が2010年度採用活動の流れに沿って、留学前後にやっておかなければならないことを丁寧に説明した。

PICK UP!!

■短大部でマナー講座

短大部1年次の必修科目「K.G.C.ベーシックス」の授業として、マナー講座が7月14日、中宮学舎の谷本記念講堂で開かれた。株式会社ロイヤルホテルの接遇講師、吉田富貴子さんが「人間力アップセミナー」と題して、あいさつや身だしなみ、言葉遣いなど基本的な五つのポイントを紹介。キャリアアップを目指し短大部の1年生全員が受講した。

元エアライン客室乗務員の吉田さんは「あいさつは人間関係の第一歩。また、就職採用試験で面接官は、まず外見から受験者の人となりを判断します」と、服装など身だしなみの大切さを話した。

言葉遣いでは、学生に自己紹介させて、「～と申します」との表現を勧め、「です」「ます」「ございます」と最後まではっきり話すよう求めた。最後に、壇上に上がった4人の学生をモデルに、立ち居振る舞いを指導＝写真。会場の全員が立ち姿、座り姿、お辞儀の仕方をモデルにならって練習した。

■就職支援のガイダンス、座談会

大学3年生のための第3回就職ガイダンスが9月26日、中宮・谷本記念講堂で開かれた。約700人が、厳しさが増す中で就職活動に入るポイントについてキャリアセンターからアドバイスを受けた。穂谷でも10月1日に就職ガイダンスがあり、8日には複数企業の人事担当者による「就職座談会」を初めて開いた。

Q 3年生です。来春の採用戦線を考えると、再来年はもっと厳しくなるのではないかと不安です。早めに就職活動を始めたほうがいいのでしょうか。

A 確かに企業の採用活動は年々早まっているし、今の4年生は就職活動で非常に苦労しています。でも、経済情勢の先行きは見通しがつきません。今は、じっくりと自分を見つめる（自分の特色を知る）▽筆記試験の準備をする▽新聞を良く読み、社会の動きをとらえる▽会社研究をする（相手を知る）――ことが大切です。3年次の秋学期は、学内の就職ガイダンスに必ず参加して就職活動の基礎をじっくりと作りあげ、本番に備える時期だと考えましょう。